



目次

「まちしる	p2	
「まちしる	3ベ」番号・名称・設置場所一覧表	p3
「まちしる	p 4	
<u>\$2</u>	安登ウォーキングマップ	p5 ~ p8
\$ 2	日之浦~沖の手ウォーキングマップ	p9 ~ p12
03(1)	中切~原畑ウォーキングマップ	p13 ~ p16
03(2)	市原ウォーキングマップ	p17 ~ p20
<u>03</u> 3	野8山ウォーキングマップ	p21 ~ p24
034	中畑~下垣内ウォーキングマップ	p25 ~ p28
03(5)	赤向坂~藤木ウォーキングマップ	p29 ~ p32
<u>036</u>	女子畑ウォーキングマップ	p33 ~ p36
みつ (1)	深之浦~子之浦ウォーキングマップ	p37 ~ p40
みつ(2)	三津ロウォーキングマップ	p41 ~ p44
みつ ③	古新 <mark>開~水</mark> 尻ウォーキングマップ	p45 ~ p48
<u>35 (1)</u>	内海ウォーキングマップ	p49 ~ p54
「わすうさ	S. 007277	// - INET

「まちしるべ」建立の主旨

安浦町は江戸時代から明治、昭和にかけ、近隣の村や集落と合併や併合又は、分割を繰り返し、周辺10か村が現在の安浦町となりました。

町内には古くからの地名や歴史的な謂われ、伝説、伝承、伝統行事等の文化的資源が豊富に存在します。また、大字、小字についてもそれぞれ意味のある地名として言い伝えられてきました。しかし、近年の住居表示変更により大字、小字が使用されなくなり、伝統的な地名が忘れ去られようとしております。このような文化遺産を後世に伝える事が私たちに課せられたこととの思いから、石碑に地名とその地に残る歴史や伝説、伝承を刻み、石碑を「まちしるべ」と名付け、末永くこの石碑が地名の由来等を語り継いでくれるものと信じ建立することになりました。

俺の名前は

「しるべぇ」だよ!!

あっちこっちに出てきて 色々なお話しと案内をするよ!

安浦まちづくり協議会 MAP 部会



「まちしるべ」碑文面の説明

正面: 地名とその読み

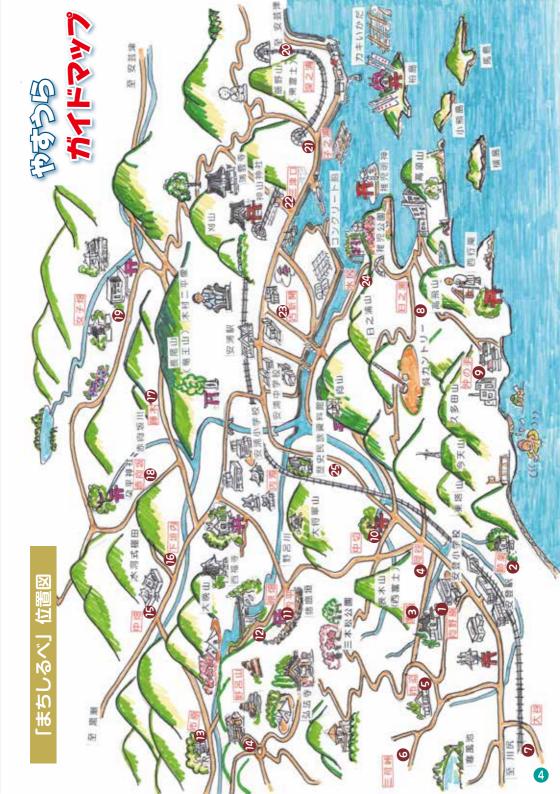
右面:地名の由来

左面:歴史・伝承・伝説等

後面:建立年と建立者名

「まちしるべ」番号・名称・設置場所 一覧表

番号	名 称	よみ	設置場所	設置年
1	向野原	むかいのはら	安登小学校	平成 24 年
2	跡 条	あとじょう	自治会駐車場法面	//
3	奥 条	おくじょう	自治会館前	//
4	岡谷	おかだに	<i>II</i>	//
⑤	市迫	いちざこ	<i>II</i>	平成 28 年
6	三荷峠	さんかだお	自治会館グランド東入口	平成 26 年
7	大 谷	おおたに	自治会館前	平成 28 年
8	日之浦	ひのうら	//	平成 24 年
9	沖の手	おきのて	//	//
10	中切	なかぎり	森神社境内屯所横	平成 25 年
11)	内 平	うちひら	自治会館前	//
12	原畑	はらはた	薬師堂境内	//
13	市原	いちばら	黒瀬・野呂山別れ交差点	//
14)	野呂山	のろさん	ロータリー自治会館入口	平成 25 年
15)	中畑	なかはた	自治会館前	//
16	下垣内	しもがうち	県道 48 号線旧道別空地	//
17	藤木	ふじき	堂畝神社境内	//
18	赤向坂	あこうざか	自治会館前	//
19	女子畑	おなごばた	消防団屯所前	//
20	深之浦	ふかのうら	三幸食品倉庫横道路	平成 26 年
21)	子之浦	ねのうら	自治会館前	//
22	三津口	みつぐち	〃 (いこいの家)	//
23	古新開	こしんがい	// (三津□分館)	//
24)	水 尻	みずしり	<i>II</i>	//
25	内 海	うちのうみ	南薫造記念館アトリエ前	平成 27 年



安登地区 まちしるべ石碑文集

10 0 st 1

右面: 地名の由来 左面: 歴史、伝説等

○数字は地図上の「まちしるべ」位置

①向野原 むかいのはら

右 面:大昔、安登の低地部が大きな池であり、早くから開けていた跡条から見て沼 (地名の由来) 地の向こうに野原が広がっていたことから向野原と称された。

左 面:勘定神社は安登地区の総氏神であり、十月に祭礼がある。明治中期、向野原を通る (歴史伝説等) 県道が寒風峠に通じると道沿いに村役場、小・中学校や商店が立ち並び賑わった。

②跡条 あとじょう

右 面: 当地の領主沖信濃の館跡があったと考えられ、村の中心地であった。 村名が (地名の由来) 内海跡村になって以後、跡条と呼び村の中心筋であった。

左 面: 奥州藤原の遺臣沖信濃の館跡、平家落人伝説の二十六平石、七つの河(井 (歴史伝説等) 戸)、観音堂、寺跡や僧道弁が造った寒風大池などの地名が今も残る。

③ 奥条 おくじょう

右 面:安登境の下条に対して、野路山麓の方を奥条といわれた。江戸時代の「浦辺 ^(地名の由来) 街道」が今も残る。

左 面: 奥条には地蔵菩薩を祀った出世地蔵と水の神・原神社と愛宕神社がある。愛宕 (歴史伝説等) 神社の祭神は火之神であり、森の火事を消した小鳥たちの民話が残っている。

④ 岡谷 おかだに

右 面:地形が岡と谷で形成されているので岡谷といわれた。江戸時代の「浦辺街 (地名の由来) 道|が今も残る。

左 面: 奥州藤原の遺臣、阿戸宗近·正名直兵衛らは岡谷に住み、正名氏は薬師如来 (歴史伝説等) 像を本尊とする髙鶴山正名寺を創建したといわれ、付近に墓と伝えられる五輪塔や薬師堂がある。

⑤市迫 いちざこ

右 面:昔、安登公園北側の森(中山)に大師堂があり、定期的に市が立っていた。市 (地名の由来) では、大勢の人達が集まり相撲大会などがあり大変賑わった。市の近くと言うことで市迫と呼ばれるようになった。

左 面:往古、安登駅付近は四条ケ池という沼地であったため、山裾のこの地に安芸 (歴史伝説等) 津から三荷峠を越え川尻へ至る浦辺街道という重要な往還道があった。昭 和の宅地造成で古道は途切れているが、一部は中川に残っている。

⑥三荷峠 さんかだお

右 面:中央ハイツは1985年~造成が始まり、438区画の団地となった。旧街道が (地名の由来) 通り、峠には道標の「里程松」があった。邪気を防ぐ「塞の神」や源平合戦の 死者を供養する「千人塚」が残る。

左 面: 三荷峠は旧浦辺街道の安登と川尻の村境にある。米俵を担ぎ1日3回も川尻 (歴史伝説等) に行けない程険しい峠道であるという意味と「賽ケ峠」がなまったとの二説 がある。一帯を「三荷峠」と言う。

⑦大谷 おおたに

右 面:この地は東西を山に囲まれた深い谷であり、竜王山の谷川の水を引き水田 (地名の由来) がたがっていた。 十本、世界(カスト) が広がっていた。古来、地形の形状から大谷と呼ばれた。戦後に造成され 人々が暮らし始めた。

左 面 (歴史伝説等) 面:昔、安登から小用へ向かう山道が大谷を通っていた。狭い山道であるため、 浄念寺の玉伝住職が村人の難儀を見かね山道を掘り下げ幅を広げて通行の 便宜をはかった。以来この道は玉伝道路といわれる。

まちしるべ



まちしるべ



まちしるべ



まちしるべ



まちしるべ



まちしるべ 6



まちしるべ





勘定神社



勘定神社鳥居

あと(1

あと歴史探訪





了玄坂

至小用

大谷

沖信濃伝説

東塔山

観音堂

今天山(

○数字:「まちしるべ」番号

 START
 ⑤
 ⑦2.1km
 ②

 あと公園→市迫→三荷峠 (中央ハイツ) →大谷→跡条→
 ③ ④4.3km
 5.3km

 向野原 (安登小学校) →奥条→岡谷→あと公園 FINISH

全行程:5.3km



安登地区 まちしるべ石碑文集

10 bt 2

右面: 地名の由来 左面: 歴史、伝説等

○数字は地図上の「まちしるべ」位置

⑧日之浦 ひのうら

右 面:朝日に向かう地名が由来で日之浦と言われた。古くは、干潟と野山ばかり (地名の由来) で、文政3年(1820)に新開を築調する。この地は安登に属する。

左 面:平家落人が隠れ住んだ里と言われ、船隠しに最適の場所であった。日之浦神 (歴史伝説等) 社や貝塚があり、周辺には多くの史跡や伝説が残る。小芋(里芋)の産地として有名である。

9沖の手 おきのて

右 面:久多田・小島・塩谷・大泊・仕形地区の総称を「沖の手」といい、昔の塩谷 (地名の由来) は、製塩が行われ「しおや」と呼ばれた。小用から塩谷まで七つの浦を「七浦 海岸」と言う。

左 面:沖の手は古くは、風待ち・潮待ちに適し、船の係留や停泊地であった。大泊 (歴史伝説等) の西行庵、高飛の神功皇后船繋岩、小島の「湯桶の口島」など、中世の海の 伝承と史跡が多く残る。

まちしるべ

(8)



まちしるべ

9







ハクセンシオマネキ 「絶滅危惧種」



カワツルモ





小 芋 日之浦地区で生産する里芋「小芋」は 食感が柔らかく甘いのが特徴です。



亀石



日之流域之 ウォーキングコース

○数字:「まちしるべ」番号

START

START 日之浦自治会館「日之浦」→

カワツルモ群生地→ハクセンシオマネキ生息地→

1.0km

第11空廠遺跡防空壕→山越え→

2.5km **②** 塩谷自治会館「沖之手」→

塩谷船だまり (港) 折返し点→日之浦自治会館

FINISH

全行程:4.4km

道中山 (128m)







0031

右面: 地名の由来 左面: 歴史、伝説等

○数字は地図上の「まちしるべ」位置

⑩中切 なかぎり

右 面:中切の中は中心を切は開墾を表す。また内海村と跡村の中間にあることか (地名の由来) ら付けられたとも言われる。

左 面:古来この地区は信仰厚く、弘法寺や八十八カ所を500年以上にわたり守って (歴史伝説等) いる。昔、大洪水のとき身を挺し村を守った大蛇を偲び、秋祭りに黄 (王) 幡 社へ藁の大蛇を奉納する。

①内平 うちひら

右 面: この地は扇平山を背に開け、古くは「打平」村と記し、江戸時代に「内平」村 (地名の由来) となった。 小屋条・向条・山条などの地名があり、猪鹿垣や洞式棚田が今も 残っている。

左面:江戸時代に築かれた猪鹿垣は遺構·文書·絵画·石碑が揃い史学的価値が高 (歴史伝説等) い。法起山阿弥陀寺は内平出身でのちの大僧正 獅谷佛定上人と村民が協力し大正9年に創建された。

⑫原畑 はらはた

右 面:古文書に畑ノ原十九軒の記載がのこる。江戸時代に原畑となる。古くは木挽 (地名の由来) 業が盛んで材木は野呂川を利用して運んだ。薬師堂の棟札にその記録が残っている。

左 面:正徳寺薬師堂は808年の創建で安浦町最古であり、この地の良質の地下水 (歴史伝説等) と優秀な酒米に恵まれ酒造が隆盛を極めた。昭和初期から養蚕農家も栄えた。



猪鹿垣 (ししがき)

まちしるべ ⑩



まちしるべ



まちしるべ

(12)





猪鹿垣碑



盛川酒造



中切の氏神様 森神社







右面: 地名の由来 左面:歴史、伝説等

○数字は地図上の「まちしるべ」位置

いちばら 13市原

右 面 (地名の由来)

面:古くは、一番早く拓けた原の意味から「一原」野呂川の石の川原から「石原」 とも言われた。また、矢田部氏の館付近を「馬乗石」と言い、これから「市 原」と言われるようになった。

左 面:戦国時代、伊予国から転住した矢田部藤左衛門の墓がのこる。 (歴史伝説等) また かな と知文学 だるとは 2000

また、神社と観音堂が今も神仏混合で祀られている。江戸時代には良質の炭 を産出した。温泉が湧いた「湯の祖」の地名がのこる。

まちしるべ









野呂川ダム(治水ダム)



野呂川遊び

野呂川のホタル

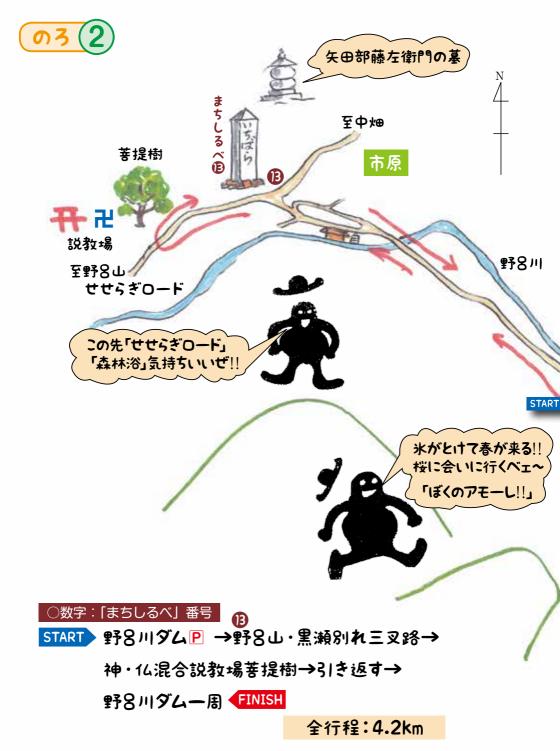


市原神社

市原観音堂の菩提樹



菩提樹の実







右面: 地名の由来 左面:歷史、伝説等

○数字は地図上の「まちしるべ」位置

14野呂山 のろさん

右 面 (地名の由来) 面:膳棚山、弘法山の二峰があり呉市で最も高い。麓から多くの「野の路」があ る山、山頂の平地が野原(のら一のろ)に見える山から野路(呂)山と呼ばれ る諸説がある。

左 面:弘法大師が修行した霊山である。江戸・明治・昭和に開拓が行われ勧農坂・ (歴史伝説等) 佐屋敷 立山 845 15世 2 1507 2 侍屋敷・立小路など地名が残る。戦後入植者が増え十文字に小学校が建ち、 夏出荷の野呂大根が有名であった。

まちしるべ

(14)







野呂の桜

「はなぞの野呂高原」コチョウ蘭



弘法寺







おすすめ:秋の散策





右面: 地名の由来 左面: 歴史、伝説等

○数字は地図上の「まちしるべ」位置

15中畑 なかはた

右 面 (地名の由来)

面:野路地域の中程に位置するので中畑と呼ばれ、野呂山までを含む広大な面 積を有し、江戸時代の中畑村は十四カ村と境を接していた。安浦町になる前 は野路地域の村役場が置かれていた。

左 面:内陸と海を結ぶ旧黒瀬街道が通り、人や物資の往来が盛んであった。 圓照寺 (歴史伝説等) の「ナカント」 (世界 キリップ ア の「大やいと」は県内外から多くの灸客が訪れた。 昔ながらの石垣と美しい 棚田が今も残る。

16下垣内 しもがうち

右 国 (地名の由来) 面: 当地は戦国時代下垣内村・芦谷村・朶平村の3村であったが、江戸時代に1村 に統合された。垣内とは「がいち・ごうち」とも呼ばれ、田畑や屋敷が石垣で 囲まれた地の意味である。

面:安芸武田氏一族が帰農したと伝わり、正福寺観音堂の周辺に古墓がある。菊 左 由 (歴史伝説等) 花紋章の入る風呂谷神社や石垣の中には石佛が残る。旧黒瀬街道の鉄砲峠 では、村人が鉄砲で通行人を守った。

まちしるべ

(15)



まちしるべ

(16)



















棚田の風景



地倉神社 (タラヨウ)

手紙の木:昔この木の葉に竹筆で手紙を書いた。



石垣の石佛:狭い道のため石垣に 埋め込んだ石佛



の3 (4)

神田の豊 ウォーキン





0035

右面: 地名の由来 左面: 歴史、伝説等

○数字は地図 トの「まちしるべ」位置

⑦藤木 ふじき

右 面:昔、山藤が多く樹生していたので、藤木となった説と、北東にある「藤木山」 (地名の由来) から地名がついたとされる説がある。天正検地には藤木村として家数二軒と記してある。

左 面:天正12年に山内新左衛門隆直が備後国から移住し、堂畝神社を中心にまと (歴史伝説等) めた。当時、神山にあったが、3回の移築を経て現在地に遷宮された。現在、藤木自治会として16世帯がつづいている。

⑱赤向坂 あこうざか

右 面:毛利時代は赤坂村と言われ、後に藤木村・伊余垣内村と合併し戸数の多い赤 (地名の由来) 坂村が中心で赤向坂村となり、赤郷坂村と記された時代もあった。 朶平地区 は明治22年に編入された。

左 面:堂前神社と朶平神社の二社がある。堂前神社の境内には東向延命寺があ (歴史伝説等) り、大林一族の建立と伝えられる。朶平神社には、山の神・田の神を祭り、樹齢400年以上の山桃がある。

まちしるべ



まちしるべ







田中邸(安浦古民家)

朶平神社の山桃 (山桃は安浦町の木)









堂前神社境内に同居の延命寺





ウォーキングコース 至下垣内



田中縣

至里瀬

赤向坂

中ヶ原山 (250m)

START

FINISH



アンナ坂 コンナ坂 赤向坂(アコウザカ) 名前のとおり 坂ばっかり!! 歩きがい満点 ハア~ハア~

)数字:「まちしるべ」番号

START 18 赤向坂自治会館P「赤向坂」

赤向坂川

シタヒラ 朶平神社古木「山桃」

堂前神社 (1.8km)

⑩ 堂畝神社「藤木」(3.6km) (反転来た道を戻る)

赤向坂自治会館 (5.6km) FINISH

全行程:5.6km

至内海



o3 (6)

右面: 地名の由来 左面: 歴史、伝説等

○数字は地図上の「まちしるべ」位置

⑨女子畑 おなごばた

右 造 (地名の由来) 面:古くは、おなご畑とあるが、由来は不明。永正6年(1509)には女子畑と記さ れている。助実(助谷)地区は小多田村の飛郷だったが、明治15年(1882) 女子村と合併した。

左 面:寺社が多く、34の小字がある。日本武尊・白鳥伝説や上田山の牡蠣岩・舟木 (歴史伝説等) 山の土代のの民話が辞る。マの世に歴史の大学は、100年代のの民話が辞る。マの世に歴史の大学は、100年代の 川の古代舟の民話が残る。この地に野路東小学校があり平成23年(2011) に138年の幕を閉じた。

まちしるべ

(19)





長命寺



御大典記念半鐘鉄塔



御大典記念半鐘



記念碑







女子畑風景 棚田



大歳神社 (白鳥伝説)



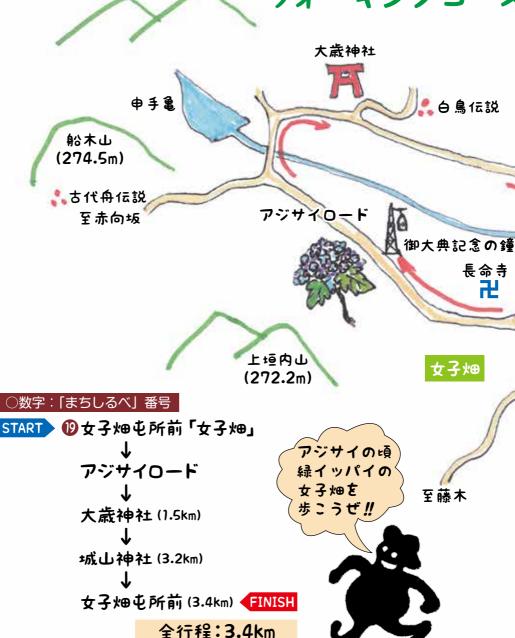
正立寺山門 奥は本堂



o3 (6)

伝説の皇

ウォーキングコース





□地区 まちしるべ石碑文集

右面: 地名の由来 左面: 歴史、伝説等

○数字は地図上の「まちしるべ」位置

20深之浦 ふかのうら

右(地名の由来) 面:古文書には「深き谷有る故」と記してある。舟でしか行けない深い谷であっ たが、大正時代1軒の家族が入植し開墾した。黒地までが深之浦であり、 「灘」の呼び名もある。

あった入植者が戦後には10数軒に及んだ。国道開通後30数軒の牡蠣養殖者 が軒を連ねた。子之浦農道からの眺望はすばらしい。

②1子之浦 ねのうら

右 国 (地名の由来) 面:三津口発祥の地であり、古くは東西北の三方への道の起点があったため道口 と呼ばれていた。往古の大洪水の後、三津口谷に本郷が移って以来、子は根 に通じる意から子之浦と呼ばれた。

面:子崎(住吉)神社前には、毛利吉田郡山城の荷役場があった。大伽藍だった 左 ことを偲ばせる天徳寺跡がある。疫病退散のため勧進された荒神社や歳神 の大歳神社などの小祀が残る。

まちしるべ

(20)



まちしるべ

(21)





















青春 18 キップの撮影場所



柏島大祭



飯野山お堂内



かき祭り



カキ水揚げ風景





絶景景道と力学街道

ハナハケ所

農免道

絶景ポイント

よくばり

飯野山 (153.7m)(安浦東の富士山)

果樹園

←健康コース 行程:2.8km

ガンザバリ

←健脚コース 行程:5.5km

深之浦

.ストラン灘

20 FINISH

小松原 トンネル

三幸食品倉庫

ய

桃 並

-(x-13-4) 道

R-185

青春18キップの ポスターにも なったベェ~



「地球の不思議が オモロイゼェ~

> 天然記念物 紅柱石

健脚コース オススメ

黑地



三津口地区 まちしるべ石碑文集

700000

右面: 地名の由来 左面: 歴史、伝説等

○数字は地図上の「まちしるべ」位置

②三津口 みつぐち [中型石碑及び字図看板並立]

右 面:平安時代には「道口」と呼ばれた。子之浦の洪水後、三つ口谷が本郷となっ (地名の由来) て以降人口が増え、三津口「三つ口」と呼ばれた。また、この地が津(みなと)であり「道口津」とも呼ばれた。江戸時代は三津口村と称したが、その後 産業の発展により、大正11年から昭和19年の安浦町誕生まで賀茂郡三津口町として町制を敷いた。

左 面:戦国時代は郡山城へ物資を運ぶ港として伝わる。浄土宗の瑞雲寺・八十八ケ 所・御典医松井邸・コンクリート船武智丸など史跡も多い。江戸時代から海岸が埋め立てられ町並みが形成された。明治以来、漁業・石灰・海運業が盛んであった。柏島大祭や神山神社例祭が今も続く。三津口小学校は創立141年である。

字図 と まちしるべ22







瑞雲寺



コンクリート船「武智丸」





一番礼所



カキ水揚げ





つサツ

ヤシロ









♥□地区 まちしるべ石碑文集

右面: 地名の由来 左面: 歴史、伝説等

○数字は地図上の「まちしるべ」位置

こしんがい ②古新開

右 山 (地名の由来) 面:この地は中畑川と野呂川による干潟で、江戸中期から干拓され、三津口村と 内海村の寄合新開の三津口側である。江戸後期、三津口側に実成新開が築 造されたので古新開とした。

左 面:この一帯は農地や塩田として開拓されたが、昭和19年に「安浦海兵団」が置(歴史伝説等) かね 粉像はおながいまたが、昭和19年に「安浦海兵団」が置 かれ、戦後は教育機関や紡績、製鉄所等があった。その後、住宅や商店、行政 機関ができて町の中心となった。

24水尻 みずしり

右 国 (地名の由来) 面:古文書に「内海川続きこの所当村川下にて、水海へ落合ケ所故水尻と称す」 とあり、三津口村の枝郷であった。江戸期に源蔵・見龍・樵路新開が築造さ れた。海運業が盛んな地域であった。

面: 古来から落人の里と言われ、平家の武士や戦国時代は平賀一族が帰農したと 左 伝わる。「お乳の神」として信仰のある稚児明神や水尻神社、水尻観音堂、鬼 婆の石、金時の力石等がある。

まちしるべ

(23)



まちしるべ





安浦市民センター



稚児明神



海兵団の碑



[フジ]



稚児公園春の花 [サツキ]



[サクラ]





発見公園 花見ウォーキングコース



内海地区 まちしるべ石碑文集



○数字は地図上の「まちしるべ」位置

②内海 うちのうみ

地名の由来: 1663年「藝藩通志」に『当村は島嶼前にありて、その内なるを以って名づく』 とある。当時は深い入り海であったことからこの地名が付けられた。また 1819年の古文書に『当村名往古より「内海」と書きて「うちのうみ」と云い来 たり』とある。

内海の地形と産業:

室町時代には頓原(どんばら)に船着場があり、八幡宮の鳥居付近まで海で、山間部から木材等が運ばれ荷物の積み出し港で広島藩の納屋所が置かれていた。道路は八幡宮の裏を回り寺迫から常広城(つねひろじょう)裏手から南谷(みなんたに)に抜けていたと伝えられている。この道を浦辺街道と言った。野呂山を水源とする北川(中畑川)中川(野呂川)は怒り川と呼ばれ、大量の土砂を流し内海一帯は干潟となった。江戸時代初期から干拓が始まり古新開・沖の口深海・大新開と新しい土地ができた。近隣で葉たばこ生産が盛んとなり、専売局の葉たばこ集積所が置かれた。

伝説、伝承・地形等による字名

●平木 ひらき

新しく開墾した山、畑を「ひらき」と呼ぶ。それが地名となったと考えられる。鎌倉時代に河野水軍の南氏がこの地を開き、造船を行っていたとの伝承がある。

●北川 きたがわ

北川は中畑村から流れてくることから中畑川とも呼ばれる。川の名前が地名となったと考えられる。水は雨の後三日間ぐらいしか流れないとの意から「三日川」とも呼ばれた。

●三泊 さんぱく

神功皇后の伝説地である。この地に清水が湧いていて、水が美味しく皇后が一泊の予定が三泊したとの伝説に基づく。今もその三泊井戸が残る。

●田屋 たや

本来は出産時の母子の居住する産屋を言う。また、地方によっては小作人小屋のある地を言う。

●茶道 ちゃどう

商家が並び大勢の人々が往来した。商家は客の接客用のお茶の木を植え、往還道に多くの茶の木が見られ、地名の由来となった。



●頓原 どんばら

とみに早く開けた地を頓原と言う。室町時代末頃までここが内海浦の港で黒瀬盆地への入り口でもあった。昭和中期まで雁木跡が残されていた。

●原垣内 はらがあち

この地は傾斜地で古くから石垣で耕地や屋敷が造成された。石垣 (垣内) が多く 見られる原でこの地名がついた。

●鍬畑(桑畠) くわはた

赤向坂との堺付近の字名で、江戸時代北川の大せき普請の際に川底から地蔵像を発見し地蔵堂に祀った記録がある。

●寺迫 てらさこ 西福寺谷 さいくんだに

谷間や狭間などを迫と呼ぶ。この地に西福寺があり、西福寺谷(さいくんだに)とも呼ばれる。寺屋敷と呼ばれている所があって、土地を掘ると墓石等が多くでる。 往古僧坊が建っていた跡と考えられる。

●南谷 みなんたに

大将軍城主南氏の家臣達の住居地であったことからの地名と考えられる。この地の住民は大将軍山(だいしょうごんざん)に登り初詣と秋祭りを継続している。

●浦尻 うらしり 古新開 こしんがい

内海のほぼ中心部に位置し、江戸時代初期から干拓された。中川 (野呂川) 以北の干拓地が古新開と呼ばれる。

後記: ここは洋画家南薫造画伯の牛誕地である。



安浦町歴史民族資料館 南薫造記念館

内海地区 まちしるべ石碑文集



○数字は地図上の「まちしるべ」位置



まちしるべ②

























浦尻の田に水を引く井手を造った 弥四郎の記念碑

弥四郎塚

県指定文化財 西福寺



木造観音菩薩立像



西福寺 五輪塔



亀山神社 授乳狛犬



亀山神社 [石段 108 段]





安浦町へのアクセス





発 行 連絡先 安浦町まちづくり協議会 TEL(0823) **84-2261** FAX(0823) **84-6684**